

摘、脾臓合併切除、D2郭清、大動脈周囲リンパ節サンプリングを施行した。病理組織診断にて根治術と診断され、組織学的効果は grade I b と判定された。術後さらに TS-1/CDDP を4コース継続したが、術後8ヶ月にて大動脈周囲リンパ節再発をきたし2010年3月大動脈周囲リンパ節郭清を施行した。病理診断では胃癌の転移であった。その後も TS-1/Paclitaxel, TS-1/CPT-11 を継続、現在多発肺・肝転移を認めながら治療開始後2年生存中である。

4 小腸内視鏡で診断した小腸癌の1例

齋藤 敬太・石塚 大・植木 匡
多々 孝・若桑 隆二・五十川 修*
丸山 正樹*・佐藤 俊大*

厚生連刈羽郡総合病院 外科
同 内科*

症例は63歳、男性。平成22年9月上旬より左上腹部痛と便秘あり。便潜血陽性のため上部消化管内視鏡と大腸内視鏡を行ったが、異常はなかった。CTにて左上腹部に腫瘍性病変と小腸間膜リンパ節腫大・傍大動脈リンパ節腫大を認めた。小腸原発と考へて小腸内視鏡を施行したところ、Triez 韌帯より肛門側に60-70cmのところに2型腫瘍を認め、生検で tub1 であった。平成22年11月に手術施行し、小腸部分切除・傍大動脈リンパ節郭清を行った。切除標本の病理所見は tub2, SS, INF β , ly1, v0, LN 6/8 で、pT3N1M1 f-stage IV であった。経過は良好にて術後14病日で退院となった。現在、術後補助化学療法として TS-1 120mg/day を2投1休で4コース目である。術後4ヶ月現在、再発を認めない。

5 腹腔鏡下虫垂切除術における吸引式ドレーンの有用性

荒井 勇樹・窪田 正幸・奥山 直樹
小林久美子・塚田 真実・仲谷 健吾
大山 俊之

新潟大学大学院 小児外科学分野

【背景】虫垂切除は腹腔鏡手術の良い適応であるが、ペンローズドレーン(PD)では術後膿瘍形成例を予防できず吸引式ドレーン(吸引D)に変更した。その有用性を検討した。

【症例と方法】症例は過去10年間に虫垂切除術を施行した68例である。

【結果】68例中ドレーン留置は30例で、PDは27例(開腹12,鏡視下15),吸引Dは3例(開腹1,鏡視下2)であった。術後膿瘍形成のため再ドレナージ術となったのは6例で全例PD例(開腹1,鏡視下5)であった。初回ドレナージのみは4例[PD3(開腹1,鏡視下2),吸引D1(開腹)]で、再手術となったのはPD2例(開腹1,鏡視下1)であった。

【結語】鏡視下手術でのPD留置例は術後膿瘍発生率が高く、吸引Dは膿瘍形成予防に有用と考へられた。

6 当科における小児胆石症15例の検討

飯田 久貴・飯沼 泰史・平山 裕
橋詰 直樹・新田 幸壽

新潟市民病院 小児外科

小児胆石症(以下本症)は比較的まれな疾患である。当科で経験した本症15例に対し、それらの臨床的特徴を後方視的に検討した。年齢は1-17歳まで平均8.4歳で性差なく、胆石の発見契機は腹痛が8例と最多で、自覚症状を伴わない偶発的発見例も5例あった。

13例が腹部エコー、腹部単純X線のいずれかで診断されていた。また、開腹手術術後が4例、遺伝性球状赤血球症が3例と基礎疾患を有する例が多く、特発例は2例のみであった。結石は炭